



琉球村の豚トイレ。豚小屋の端に廁(かわや)をつけ、人間の排泄物を豚が食べる仕組み。14世紀ごろ、中国から沖縄にもたらされました。豚舎と廁はほぼ同義語で、「フル」や「フル」などと呼ばれていました。衛生面から明治時代に使用が禁止されました。

風や水の流れて問題解決
伝統的な琉球民家では、トイレはプライベート空間に配置され、敷地の左手奥にありました(左図参照)。方角的にみれば、トイレは北や西のエリアに配置されていることが多かったはず。トイレの配置は、風水の視点からとても大きな意義がありました。図を見ると、夏の心地よい風は、主に南や南西から吹き、一方、冬は北や北東から厳しい季節風が吹き込みます。この位置にトイレがあると、夏の風、冬の風、どちらの風が来てもト

琉球王国では、豚トイレが各家庭で広く利用されていました。今回は、琉球民家のトイレを風水の視点から解説します。

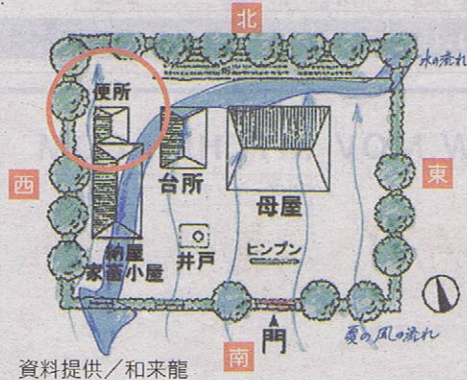
琉球 アロマと風水で すっきり

執筆/横川明子
(アロマ空間デザイナー・琉球風水スクール「アムリタ」主宰)

■ トイレ① 琉球民家から見る配置のポイント

食を生む重要な場

伝統的琉球民家の水の流れと風の流れ



健康運：雑菌などによる病気の感染が広がる場で、住人の健康運に影響する
財運：風水では水は財をあらわし、住宅の財運に影響する




トイレのつかさどる運氣

イレの臭いが母屋に流れません。沖縄独特の風の性質を知ること、トイレの臭いの問題は緩和されています。
また、琉球風水では、敷地は北側と東側が高く、南側と西側が低いことが理想とされています。敷地内の水は、北東から南西に流れるため(左図参照)、母屋の下には水が通りません。当時はもちろん水洗ではなく、主に豚トイレが取り入れられていました。大雨が降っても、汚水が母屋に流れ込まない位置にトイレが配置されています。
当時のトイレは、今以上に重要な場所でした。それは、排泄の場でありながら、食を生む場でもあったためです。豚は食肉として、また行事にはなくてはならない重要な家畜です。ま

人体に例えるとお尻

風水では、住宅を人体に例える考え方があります。玄関が顔、口であるとすれば、トイレはお尻や肛門に当たり、住人の健康運に影響すると考えます。また、風水では水は財をあらわし、トイレは玄関から入った財運の出て行く場所でもあります。玄関と対角線上にあたり、動線が長いなど、玄関からトイレができるだけ遠くにあるほうが、財運や健康運が家全体に行き渡り、吸収されやすいと考えます。
今回は、現代住宅のトイレで健康運・財運を上げるための具体的な実践法についてお伝えします。

よこかわ・あきこ / 東京都出身。マリンサファイア合同会社代表。アットアロマ社認定アロマ空間デザイナー。和来龍氏に師事し、琉球風水を学ぶ。講師のほか、琉球風水鑑定を行っている。



ホームページ <http://aromarine.jp>
ブログ <http://ameblo.jp/marine-sapphire/>